

歴史を振り返り、良き「校風・伝統」を守り発展させる

令和4年度 第32代校長 松田昌樹

◆市内で最初に開校した西中学校

本校は、昭和12年に創立された「甲府市立男子高等小学校」を前身にもつ、甲府市内で最も歴史のある中学校です。当時の甲府市内には高等小学校が2校あり、市の西部に本校の前身である「男子高等小学校」が、市の東部に東中の前身である「女子高等小学校」が置かれていました。

その後戦後の教育改革により新しい学制が発足し、昭和22年4月22日には、本校をはじめ東中・南中・北中の4つの中学校が同時に開校しました。市内全中学校の創立記念日が4月22日に定められているのは、本校を含め最初に創立された4校の開校が4月22日だったからです。

昭和の時代には本校の生徒数が激増し、一時は2500名程の生徒が在籍していましたが、昭和35年度には南西中学校が、昭和61年度には富竹中学校が本校から分離開校し、その後の生徒数は現在の規模に近づいてきました。また、開校当初の校舎は木造2階建てでしたが、現在の校舎は昭和57年に建てかえられた2代目の校舎となります。

◆引き継がれてきた「青雲の志」

さて、本校の伝統・校風について考えるときに、どうしても欠かせないのは「青雲の志」ではないかと思います。本校は昭和34年から平成11年度までの40年間、全国的にもあまり例を見ないPTA所有の林間学校寮「青雲寮」を八ヶ岳にもっており、毎年全校生徒が参加して八ヶ岳での林間学校を実施していました。現在生徒玄関前に「青雲に大志を抱く君たちが、高原に心を清め、夏に体を鍛えるために、この寮をつくりました。」と記された青雲寮の石碑がありますが、本校は文武両道・人間性豊かな「青雲の志」を大切にしており、その精神は屋上に設置されている「青雲鐘」とともに大切に引き継がれてきました。

◆生徒会活動の歩み

また、本校は開校当初から生徒の自治的活動も盛んであり、学校創立3年目の昭和24年4月には初めての生徒会選挙が実施され、翌年の昭和25年度には生徒会歌及び生徒会旗が創られ、生徒会誌「青雲鐘」も創刊されています。

昭和25年度の青雲鐘創刊号を見ると、巻頭に当時の山梨県教育委員会教育長田中哲雄先生からの寄稿文があり「良い校風の樹立に努力してほしい。よい校風、よい伝統は先生方の訓示や指導によってつくられるものではない。すべては諸君自らの手による協力した活動と心構えによってうち立てられるものである。」と記されています。創刊号の中には、当時の先輩達が創立間もない本校の校風・伝統づくりに向け、苦労しながらも協力し奮闘していた姿が収められています。本校の生徒会は当時全国的に見ても先進的な取り組みを進めており、県内をはじめ東京都、栃木県などから多くの視察があったことも記録に残っています。

◆自治により自由を獲得した「頭髪自主規制」

さらに、本校の生徒会活動の歴史の中で特筆すべきことは、昭和46年に男子頭髪の自由化

に向け、生徒会によって「自主規制」が作られたことです。当時はほとんどの中学校で男子頭髪は丸刈りでしたが、昭和46年度に当時の望月恒利校長先生から頭髪自由化の方向性が示され、実施にあたっては繰り返し生徒総会を開き、生徒が作った「自主規制」により頭髪の自由化への第1歩を踏み出しました。現在の生徒手帳にも「頭髪の自主規制」のページに、「私達は昭和45年より頭髪問題について多くの議論を重ね、最終的に頭髪の自由を目指すことを確認しました。ここに、その目標達成のための第一段階として、この規制を定めることとし、私たちは、私たちの責任において、この規制の1項目でも減らす努力を続けることをめざします」とあります。まさに先輩達が、民主的で自主・自立の精神を大切にしながら自由を獲得するなど、活発に自治的活動に取り組んできたことがわかります。

◆厳しい状況の中にあっても良き「校風・伝統」を守り発展させたい

昨年度、私自身の母校でもある西中に着任し、これまでの先輩や先生方を中心に多くの方々が築いてきた本校の「良き校風・伝統」がしっかりと受け継がれている姿を実感することがたくさんありました。それは生徒の皆さんにとっては「当たり前」のことかもしれませんが、「毎日交わされる爽やかな挨拶」であり、「膝をついて一生懸命に雑巾がけをする清掃」や「授業開始2分前に着席し授業準備をする姿」……です。そして生徒のみなさんの「日常生活・学習に真面目に一生懸命取り組む姿」や「仲間への思い遣りの心」でもあります。

新型コロナウイルス感染症の拡大という今までにない厳しい状況がいつまで続くのかはわかりませんが、全校生徒の皆さんが引き続き「良き校風・伝統」を大切するとともに、コロナ禍に応じた「新しい活動や行事のあり方」を工夫する中で、本校の素晴らしい「校風・伝統」がさらに磨かれていくことを願っています。

◆令和4年度の教育活動

令和4年度は、学校教育目標「知を磨き、豊かな心とたくましい体をもった生徒の育成」の具現化に向け、新学習指導要領の趣旨をいかした適切な教育課程の編成と実施や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善、道徳教育・人権教育の推進等による思い遣る心の育成など6つの重点を定め、生徒一人一人の善さや可能性を伸ばす学校づくりを進めております。また、校内研究におきましては、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現～授業改善と学級づくりを通して～」の2年次とし、一人一実践やICT機器を活用して「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を目指すとともに、昨年度よりその基盤となる学級づくりを重視し「学級力向上プロジェクト」などにも取り組んでいます。本年度は、全ての生徒の可能性を引き出すためにも、認め合い・学び合い・高め合う前向きなトーンをもった集団づくりを大切にすることや、生徒一人一人の「まじめさ・誠実さ・我慢する力や頑張る力」などの非認知的能力を育むことを全職員で確認し、これまで以上の熱意で創意あふれる教育活動を展開してまいります。

保護者・地域の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。恵まれた素晴らしい教育環境の中で、本年度も教職員一同全力で「全ての子どもたちの成長に責任をもつ学校づくり」を推進してまいりますので、今後ともさらなるご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。